

AFPYの5つの視点による授業評価シート

視点	自	他	評 価 項 目 (例)
P D C A	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	授業のねらいが具体的で明確である。 ねらいに即した学習活動が仕組まれている。 ねらいが達成されたかどうかを検証できる。 授業評価が授業改善につながっている。
安心・安全	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	お互いの考え方や感じ方の違いを認める雰囲気がある。 誤答であっても、ばかにしない。 他に対して共感的な態度を保っている。 人権や道徳に反する言動は許さない指導をしている。
ルール	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	学校全体の共通ルールを守らせている。 (挨拶、返事、発言方法等) 学級の共通ルールを守らせている。 開始、終了時刻を守っている。 教科書等物を大切に扱わせている。
コミュニケーション	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	単独では解決できない場面をつくっている。 自分の考えを言語化し、意見を交換する場面がある。 話し合いの方法を伝えている。 ペアやグループで取り組む時間がある。
達成感	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	基礎的事項をもとにした課題が設定されている。 追究したくなる課題が設定されている。 達成可能な課題が設定されている。 達成できた喜びを共有させている。

<視点の説明>

■ PDCAサイクル

学校組織マネジメントにおけるPDCAサイクルが最近特に注目されていますが、その有効性は学級集団づくりや授業づくりにおいても変わることはありません。一つひとつの授業の中でもねらい（目標設定）、活動、ふりかえり（評価）、改善のサイクルは常に回り続けることが重要です。

特に授業のねらいはその授業の出発点となります。目標設定の条件として、具体的で明確であること、達成可能であること、検証可能であること等があげられます。

■ 安心・安全

学級内での力関係が固定化されていたり、一部の児童生徒の意見ばかりが取り上げられるという状況では、集中して学習に取り組むことは難しいと思われます。お互いの違いを認め、多様な意見を交換する中で課題が達成されるような授業が求められています。教師は常に児童生徒のよさを認めるとともに、不規則発言や授業妨害等は許さないという態度を維持しなければなりません。

■ ルール

学習規律が確立されていれば、学級全体が落ち着いて授業に取り組むことができます。授業開始や終了の挨拶は起立するのかどうか、授業中に発言する際には起立するのかどうか等学校全体や学級の共通ルールが決められており、それらを児童生徒に常に守らせることが重要です。また、教師自身が授業の開始・終了時刻を守ったり、ものを大切に扱ったりすることは率先垂範の意味でも極めて有効であると考えられます。

■ コミュニケーション

学習指導要領では「言語活動」が改訂のポイントとなっており、県教委の3つの基軸にもあげられています。学習課題に対して、ペアやグループで取り組み、自分の考えを言語化し、意見を交換する場面があるかどうかはこれからの授業づくりにおいて重要です。小グループの話し合いの進め方について日頃から児童生徒に伝えておくことも大切です。

■ 達成感

自分一人で解決できる課題であれば、人と話す必要はありません。達成感もあまり得られないでしょう。そこで、今までに習得した基礎的事項をもとにして、小グループで迫っていけば、何とか達成できる程度の課題設定が求められます。何度も試行錯誤した結果、課題達成できた喜びは必ず学ぶ意欲につながっていくことでしょう。

<使い方>

このチェックリストは、授業者以外に1人の教員が参観することを前提にしており、日々の授業が少しずつ改善されていくことをめざしています。

- ① 授業参観者が「他」のボックスにチェックを入れる。
- ② 授業者が「自」のボックスにチェックを入れる。
- ③ 両者の評価の共通点や相違点について意見を交換する。
- ④ 次の授業で生かせる改善点を見つけ出す。